

令和7年11月の解説（週間天気予報）

【11月の天候状況】

上旬は、北・東・西日本では、天気は数日の周期で変わったが、北日本日本海側では低気圧や低気圧通過後の一時的な冬型の気圧配置による寒気の影響で、曇りや雨または雪の日が多くなった。1日には急速に発達した低気圧の影響で、北日本と東日本日本海側を中心に11月としては記録的な大雨が降った所があり、北日本では大荒れの天気となった所もあった。これらのことから、旬降水量は北日本太平洋側でかなり多く、北・東日本日本海側では多かった。また、旬間日照時間は北日本日本海側で少なかった。沖縄・奄美でも天気は数日の周期で変わったが、前線や湿った空気の影響で、旬降水量は多かった。

中旬は、数日の周期で、低気圧が発達しながらサハリン付近を通過し、通過後には北日本を中心とした西高東低の冬型の気圧配置となった。冬型の気圧配置が強まつた18日には、青森県酸ヶ湯では積雪差日合計が76cmとなり、1979年の統計開始以降11月としての多い記録を更新した。一方、東・西日本は移動性高気圧に覆われやすく、低気圧、前線や寒気の影響が小さかった。これらのことから、旬降水量は北・東日本太平洋側と東・西日本日本海側でかなり少なく、旬間日照時間は北日本太平洋側と東日本日本海側でかなり多かった。沖縄・奄美は、期間前半には、暖かく湿った空気に覆われやすく、台風第26号や停滞前線などの影響を受け、記録的な大雨となった所もあった。このため、旬降水量はかなり多かった。

下旬は、西日本を中心に移動性高気圧に覆われて晴れた所が多かった。このため、旬間日照時間は、北・東・西日本日本海側と西日本太平洋側でかなり多く、東日本太平洋側と沖縄・奄美で多かった。移動性高気圧に覆われやすく、寒気の影響を受けにくかった東日本日本海側では、旬間日照時間平年比が145%となり、1961年の統計開始以降、11月下旬として1位の多照となった。旬降水量は、北・西日本日本海側、北・東・西日本太平洋側、沖縄・奄美で少なかった。一方、日本の北では数日の周期で低気圧が通過し、北日本を中心に低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだ日があったため、旬平均気温は、北日本でかなり高く、東・西日本で高かった。

【11月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3~7日目平均)は、例年値（注）よりも5ポイント高い84%となった。地方別の適中率では、北海道地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値を上回った。

最高気温の予報誤差(2~7日目平均)は、全国平均で例年値と同じ1.9°Cで、四国、九州北部、九州南部の各地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値と同じか例年値を上回った。また、最低気温の予報誤差(2~7日目平均)は、全国平均で例年値より0.2°C小さい1.6°Cで、全ての地方で例年値と同じか例年値を下回った。

（注）例年の値は、2015年～2024年の平均値です。

【1月の週間天気予報の利用にあたって】

1月から2月にかけては、1年で最も気温が低くなる時期です。冬型の気圧配置が続き、日本海側では雪の日が多く、強い寒気や低気圧の動向によっては大雪となることもあります。ま

た、冬型の気圧配置が緩んで晴れる放射冷却によって気温がさらに下がることもあり、低温による凍結などの被害が起こることがあります。週間天気予報で気温の低い予想が続く場合は、低温に対する早めの対策を取るなど、最新の気象情報に留意して下さい。